



やらまいか

クラブテーマ：転換点ポスト平成そして令和をデザインしよう

会長/伊藤正幸 幹事/縦山修一 会報委員会/宇野秀幸・加藤雅美 例会/毎週火曜日 12:30 豊川商工会議所
事務局/豊川市豊川町辺通 4-4 豊川商工会議所会館内 TEL0533-86-2535 Fax0533-86-8889 HP/<http://toyokawahoi.tank.jp>

本年度第27回 通算1603回 2020年1月28日(火)	出席報告	会員総数	出席者数	出席率	1/14 修正出席率
		68名	38名	62.2%	91.8%

ゲスト：豊川市長 竹本幸夫さん ビジター：広中 一さん(豊橋)

★会長あいさつ

伊藤正幸会長



こんにちは。新型コロナウイルスの感染の報道が出ています。気になるのは、パンデミックにならないか心配をしています。

心配のし過ぎかもしれないですが、家族や社員さんを守るために気を付けてください。非常事態に備えて、味噌と米と缶詰をご用意頂くことが良いかと思えます。

本日は、豊川市長の竹本さんにお越し頂きました。新年度の予算に向けて、大変お忙しい中お越し頂きました。誠にありがとうございます。とても楽しみにしておりますし、期待もしております。

今年度は、「教室で森を育てよう」という環境保全事業を通じて、森林環境譲与税をぜひ子どもたちの環境にお使いいただきたいと、豊川市長に提言をさせて頂きました。

私たち会社を経営して法人は、1年に1回、必ず決算があります。そして結果が出るわけです。そういう意味では、行政の方の結果は何なのかと考えます。豊川市の場合は、人口が増加しています。他の市町村は、減っている地域もあります。やはり元気のある豊川の街に、人々がこの地に定住をするのだと思います。それが、行政の方がやっていることを評価する軸ではないかと思えます。

森林環境譲与税も、この豊川から、東三河から、愛知県、そして日本全体へと広がって

いくこと。豊川市の元気の良さが、東三河へ、愛知県、そして全国に響くように、市長に期待をしたいと思います。

★幹事報告

縦山修一幹事

例会臨時変更のお知らせ
東三河分区ゴルフ大会開催について

★委員会報告

雑誌広報委員会(竹生委員長)
ロータリーの友1月号の紹介
太田稔会員
葬儀の会葬御礼あいさつ

★外部講師の卓話

「豊川市政について」竹本幸夫豊川市長

皆さん、こんにちは。私は、ロータリークラブの例会に講師として出席するのは2回目でございます。前回は、平成20年8月に副市長に就任した直後に一度お伺いをしました。今回が2回目です。



ただ、平成25年に、B-1の協賛やボランティアの派遣、広告などお願いしてお伺いしたことがありますので、例会への出席は、本日が

3回目になります。

市政についてということで、主には私のマニフェストについてお話をさせていただきます。

マニフェストには、3つの基本理念を掲げました。基本理念1は「暮らしやすさ第一豊川市」で、これは毎年1000人の社会増を目指しています。基本理念2は「子育て豊川応援団」で、日本一子育てしやすいまちを目指しています。基本理念3は「市民と創る協働と健全財政のまち」で、市民が主役の市政を進めるといことです。

私としては、雇用の創出、子育て支援に特に力を入れていきたいです。このマニフェストを作ったきっかけは、平成26年当時に元総務大臣の増田寛也さんが、増田レポートというのを書きました。2010年と2040年で、20代30代の女性が50%以下に減ってしまうところは、消滅可能性都市ということで、新城以北は全てそれになりました。東栄町は減少率が75%ですので、残る率は0.25です。豊根が0.3ぐらいです。例えば人口8千人の町で、20代30代の女性が千人いたとして、30年経つと300人になってしまいます。さらに30年経つと90人になってしまいます。そのような地域は、出産適齢期の女性が少ないと、人口が減少して消滅してしまいます。

私としては、何としてでも適切な人口維持を図らなければならないということで、最初にあげたのは雇用の創出です。1番にあげたのは、八幡地区の街づくりです。八幡地区の街づくりは、平成26年に日立とスズキが相次いで撤退を発表しました。その当時、日立には関連会社含めて約600人、スズキには470人の従業員が働いていました。両方合わせて1070人です。

イオンが住民説明会で発表している売り場面積は、102,000平米です。これは全国で5本の指に入るそうです。推定される雇用が、約3千から4千人ですので、日立とスズキ合わせて数字の3倍ぐらいの雇用を生みます。幸いなことに、豊川商工会議所の新春懇談会でも、小野会頭からは、今まで3年間はイオン進出を反対したけれども、これからはイオンとの共存を考えるという発言を頂きました。市としても、影響を受ける中小小売業者については、会議所とタッグを組んでやっていこうと思っています。

なぜ、人口維持が大切かと申しますと、一つには水道料金の値上げです。静岡県に富士

市という街があります。ここは大手企業もあり、非常に財政力の豊かな市だと思っていましたが、3年程前にネットを見ていたら、「富士市の水道料金40数%値上げ」と出ていました。現在は水道管の耐震化を進めていますので、そのような費用が必要になってきます。そうしますと、給水人口が減ると改修工事費をカバーするためには、結局は水道料金を値上げするしかありません。

1年ほど前に、岩手県の雫石町でペンを営業している人たちに対して、民間水道業者が水道を止めるという通告をしていたことがありました。このエリア一帯は、元々は別荘地でした。古くからの別荘地で、別荘が古くなって利用しなくなった人、相続した人たちが、本来払うべき修繕積立金や水道の基本料金を払わないことから、民間の水道業者が水道を止める通告となりました。結局は、町が一時金を肩代わりしました。空き家が増えて人口が減ると、いろんな面で弊害ができます。その典型的な例だったと思います。

名鉄の蒲郡線も赤字が出ています。当初は県と西尾市と蒲郡市が一定の負担金を納めて何とか存続していました。県は改善の傾向が見られないという理由から、前回の更新時期から手を引きました。現在は、蒲郡市が1億5千万円、西尾市が2億円を納めて何とか存続しています。

このように、現在の市民生活を守るために、人口維持は非常に重要なことだと考えています。

新規工業団地ということで、白鳥地区に約9haの工業団地を造ろうと考えています。平成27年に、旧一宮町の大木地区に開発面積13ha、分譲面積10haを27年の2月から引き渡し可能になり、その時点で完売でした。6区画全て売れました。内陸部であれば、需要は非常に大きいと思っていますので、白鳥地区を検討しているところです。大木地区の工業団地では、合併直後から動いて、実際に分譲までに9年掛かっています。ですから、白鳥地区だけでなく、次の先手という形で、私のマニフェストの中で23号バイパスの豊川為当インターチェンジ付近に新たな工業団地が可能かどうか検討をしていくことをあげております。

当然、通勤者の利便性を高めるために、愛知御津駅の橋上化もあげております。

行政である以上、ある程度の税収確保も考

えます。愛知御津駅の南側は、未利用地が多くあります。用途地域は住居系です。もしも駅の橋上化ができれば、南側からも改札に行けるようになり、南側に店舗やマンションなど宅地化が進むと思います。そうすれば、税収増にもつながります。

豊川市は、区画整理も市内で4か所やっています。豊川駅東、豊川西部、大木、それと小坂井地区の伊奈・宿をやります。伊奈・宿地区は、面積は小さく、伊奈駅の北側で1号線に挟まれた地域です。今は、ほとんど未利用地となっています。小坂井地区は、もともと道路が狭いので、赤字覚悟の区画整備となります。

人口増のためには、今後も色々な手立てを打っていきます。当然、子育て支援等もしっかりとやっていきます。若いお母さん方が、豊川市に住んでよかった、豊川市に住んでみたいと、言って頂けるような、そんな政策を行っていきたいと思っています。

市として一定の質は必要だと思います。施設を整備したりするのもそうです。スズキの跡地は約14ha、日立は約8haです。日立の跡地は市の開発公社が取得し一部香月堂さんに売りましたので、7.45ha所有をしています。こちらは、文化会館、総合保健センターを作りたいと考えています。総合保健センター内には、産後うつ病の対応を考えて、妊産婦ケアセンターも作ってまいります。今は新城以北には産婦人科医がいないので、里帰り出産ができません。そのようなことも考えて施設を作ってまいります。

マニフェストの中には、商工会議所、商工会、農協と連携した産業支援もあげております。中小小売業者は、イオンができることにより、かなりの影響を受けることになります。今までは、お店の表面だけを改装する場合の一定の補助を出してきました。今後は、無利子の融資制度や内装等も含めた新たな支援措置も考えていきたいと思っています。これは会議所等の部会長さんともヒアリング等行って、実効性の高いものにして参ります。豊川市全体が発展できるような形で行きたいと思っています。東三河の中で元気さと勢いでは、豊川市が中心だと思っています。今後は豊川市が東三河を引っ張っていきける、そんな位置づけになって、そして東三河全体の発展に繋がるように頑張りたいと思います。ご清聴ありがとうございました。

★ニコニコボックス

広中 一さん メーカーキャップに来ました
加藤雅美会員 誕生日を祝って頂き
岩瀬靖宏会員 入会記念日を祝って頂き
鈴木 博会員 "
滝下 勲会員 "
岩瀬靖宏会員 所要にて途中退席します

★ガバナーメッセージ（月信2月号）

2月は平和と紛争予防紛争解決月間です。また、2月23日から3月1日まででは世界理解と平和週間です。アフリカ・ウガンダ共和国のマケレレ大学にロータリーで7箇所目となるロータリー平和センター設立のためにこの地区から50万ドルを冠名基金として拠出しました。25万ドルは地区内のホシザキ電機様より、25万ドルは地区DDFからです。



日本にいると今や平和や紛争解決という言葉が縁遠いので、ロータリー活動として6つの重点分野も馴染みが薄いと思います。故に、私は地区方針に「グローバルに考え・・・」と掲げた次第です。ポリオ根絶も日本人にはもはや関心が薄れているのかもしれませんが。私が小学生の頃にはポリオに罹患した同級生もいましたが、世界から援助をいただき1980年代に日本はポリオ根絶に成功しました。今はロータリー活動を通してポリオ根絶に日本のロータリアンが世界に恩返しをしているわけです。地区では一人あたり150ドルのロータリー財団へのご寄付と30ドルのポリオ基金へのご寄付をいただいております。これはグローバルな視点にたって行動していただいている結果です。

ポリオ根絶とともにロータリーが力をいれる重点分野のファーストプライオリティは平和です。現在世界の紛争地域はシリア、中央アフリカ、アフガニスタンです。

この平和センターがアフリカの平和に貢献する人材を育成し、紛争がなくなることを切に願うばかりです。このマケレレ大学ロータリー平和センターへの支援を通して、当地区のロータリアンの皆様が“グローバルに考える”機会となるとともに世界理解が進むことを願っています。

会報担当：宇野秀幸会員・加藤雅美会員